



6/10

## 出土品が語る弥生世界

### ミュージアムリニユール記念シンポジウム



唐古・鍵考古学ミュージアム  
チーフプロデューサー  
藤田 三郎



小松市埋蔵文化財センター  
参事  
下濱 貴子



愛知県埋蔵文化財センター  
副センター長  
宮腰 健司



元同志社大学歴史資料館  
教授  
辰巳 和弘



桜井市纏向学研究センター  
所長  
寺澤 薫

弥生時代の出土遺物が国の重要文化財に指定されることから、記念のシンポジウムを開催しました。桜井市纏向学研究センターの寺澤さんをコーディネーターに、4人の討論者は報告のあった3遺跡の特質や遺物の特徴、指定品の活用について活発な議論を展開しました。

### ものづくり・匠の技と文物の交流

初めに、出土品が重要文化財に指定される3遺跡が、地域（現在の郡ぐらゐのエリア）の拠点となる集落で、これらの集落ではさまざま「ものづくり」が行われている実態が示されました。その中で、各遺跡における匠の技として、唐古・鍵遺跡では青銅器生産、八日市地方遺跡（石川県）では玉作り、朝日遺跡（愛知県）では骨角器がすばらしい技術をもって担当から明らかになってきました。また、弥生時代において希有な遺物として、八日市地方遺跡の赤黒の色分け彩色された魚形木製品や朝日遺跡の壺胴部に大きく穴をあけた「円窓土器」があり、その使い方や用途について定説がない中、各論者からは穴を布で覆ったの

でないかとか、その中には目に見えないものが入っていたのではないかとさまざま考えが示され、来館者も大いに関心を持たれていました。また、これらの遺跡での金属器使用が盛んであったことも重要視され、金属器の流入について、北陸の八日市地方遺跡では日本海ルートで江戸時代の北前船の港・ルートが想定されるだろうと下濱さんの考察もありました。

### 弥生時代の文化と思想の問題

弥生時代の文化を考える上で重要なものが絵画土器です。唐古・鍵遺跡になぜ、絵画土器が多いのかという謎について、調査者の藤田は唐古・鍵遺跡の盛行期に重なり、絵画土器を使った祭祀を盛んにする必要があったとの見解を示しました。辰巳さんは、この遺跡の爛熟期の文化のひとつとして顕在化したのではないかと、また、寺澤さんは奈良盆地の閉鎖的な空間に生まれた唐古・鍵遺跡の特殊性ではないかとしました。この特殊性が生まれた背景についても話が及び「ヤマト」という地域の自然環境の良さが「文化と思想的なもの」を深化していったという点で討論者の一致をみました。さらには他の2遺跡でも同じであり、そこには弥生時代の集落が自然とともに「も

のづくり」を行い、豊かさを築いていった姿が浮かび上がってきました。終盤では、寺澤さんから各担当者に今後、出てきてほしいものや重要文化財に加えていきたいものについての問いかけに、朝日遺跡では「首長の館」、八日市地方遺跡では銅鐸や朝鮮半島産の「多鈕細文鏡」、唐古・鍵遺跡では銅鐸や大陸の文物という期待と抱負が語られました。

最後に、寺澤さんは「弥生時代集落遺跡での重要文化財一括指定としてはこの3遺跡ほどしかなかく、今後、このような議論を通して各地の遺跡出土品の重要文化財指定が推進され活用されていくことを期待する」と話され、シンポジウムを締めくくられました。

### 8月は観覧無料

新しくなったミュージアムへ！子どもたちは夏休みの宿題に、大人は弥生の技など重要文化財の優品をご覧ください。



**日時** 8月1日(水)～31日(金)  
午前9時～午後5時（月曜日は休館／入館は午後4時30分まで）  
**園** 唐古・鍵考古学ミュージアム ☎ 34-7100



タワラモトタクシー事業受託事業者4社と、見守り活動及び災害時緊急輸送に関する協定を結びました。これは、見守りが必要な人の異変や不審者などに関する情報提供と災害発生時の避難場所などへの輸送をお願いするものです。今後も、安心・安全なまちづくりに取り組んでまいります。

6/29

見守り活動及び災害時緊急輸送の協定  
**タクシーも見守り協力**



村屋神社で行われた「夏越し大祓い」。これは半年間の無事を感謝し、残りの半年間の息災を祈願するものです。参拝者は、直径約1.8mほどの茅の輪をくぐり境界内に入りました。その後白紙で作られた人形が配られ、その人形に半年間の罪などを移すように気持ちを込め息を吹きかけました。

6/30

夏越し大祓い  
**半年間の息災を祈願**



弥生の里ホールで「たわらもと吹奏楽団 第14回弥生の里コンサート」が開催されました。交響曲からポップスまで、幅広いジャンルの曲の演奏が行われ、中学校合同ステージやキューティーズによるダンスで、会場全体が一つになって盛り上がりました。

6/3

第14回弥生の里コンサート  
**たわらもと吹奏楽団**



FCバルセロナサッカースクール奈良校で、6月から田原本クラスが開校することから、関係者の方々が町長を表敬訪問しました。テクニカルディレクターのエドゥアルドさんは「田原本町の子どもたちは努力する姿勢がすごい。このクラスは活性化すると思います」と話されました。

6/6

FCバルセロナサッカースクール  
**田原本クラス開校**



第68回「社会を明るくする運動」が全国的に行われ、町では、磯城地区保護司会をはじめとした関係機関による街頭啓発が近鉄田原本駅・笠縫駅で行われました。駅の利用者に、青少年を非行から守り、非行に陥った青少年の立ち直りを助けるため理解と協力の輪を広げようと呼びかけました。

7/2

第68回「社会を明るくする運動」  
**駅前街頭啓発**



河川防災ステーションで手話「しきの会」を対象に「防災出前講座」が開催されました。自助、共助の重要性を説明した後、災害時の状況をイメージし、自分を主人公とした物語を年表形式に作成していく「目黒巻」というトレーニングツールを使用して、ワークショップを実施しました。

6/16

手話「しきの会」での防災出前講座  
**楽しみながら防災を学ぶ**